ゴミコミエベツ Vol 67

古写真で振り返る家庭ごみ今昔

ごみ処理の近代化 - 昭和50年代

「収集日の朝9時までにごみを出しましょう」というのが今のごみ出し。では、昔はごみをどうやって処理していたかご存じですか。

実はごみの処理はその土地や時代に合わせて変化しているのです。長年ごみ行政に携わった鈴木政博さんにごみの歴史について伺います。

詳細 廃棄物対策課 ☎383-4217

ごみを収集する馬車（中央通 / 現：江別駅付近）S29 撮影

昭和29年 清掃法

昭和36年（江別市）ごみ処理を直営化 市が収集を開始

街中に設置されたごみ箱（写真右）S33 撮影

昭和38年（江別市）ごみ収集車導入

▲数少なかった機械式ごみ収集車

収集作業中の車両

昭和47年（江別市）ごみ粉砕処理場完成

焼却処理場（工栄町）

昭和54年（江別市）大型ごみ分別収集開始

昭和55年（江別市）二分別（可燃・不燃）収集開始

ごみステーションでの収集作業

昭和56年（江別市）ごみ焼却処理場完成

昭和58年（江別市）ごみステーション方式の採用

自治体が収集を始めた昭和初期

昭和29年に「清掃法」が施行され、自治体がごみを収集し、住民がそれに協力することが定められました。

それ以前は、今では考えられませんが、海や河川へのごみ投棄や野焼きが一般的で、江別市内でも家庭のごみは畑に埋めたり、燃やすのが当たり前でした。

市街地などで行政によるごみ収集が始まったのは昭和30年頃からですね。木製のごみ箱が市街地に設置され、近隣の人々が使用していました。

激動の昭和50年代

昭和40年頃からは江別の人口は急激に増加したので、ごみ行政もどんどん変化していきました。

昭和38年になるとごみ収集車が導入され、効率化が図られました。当時の車両は、現在のごみ収集車のような機械車は少なく、ほとんどが荷台の長い車でした。

私も昭和40年代頃から作業していましたが、冷蔵庫から便器までさまざまなごみを約3mほどの高さまで積み上げ処分場に運んでいたため、運搬時にごみが落ちないよう積み込むのに苦労しましたね。

現在はできませんが、大事な指輪をごみに出してしまったという人のためにごみ収集車から探し出したこともありましたよ。

また昭和58年にはごみステーション方式が採用されて現在のようなごみ出しに近づきました。夏場のにおいや冬の除雪などの問題から、当日朝9時までにごみを出す決まりも作られました。

こうして集めていたごみは昭和56年まで埋め立て処分していました。当時はリサイクルという言葉はありませんでしたが、ごみの処理と環境負荷への懸念から再使用が可能な金属を取り出した方が良いと考えられ、可燃ごみと不燃ごみの分別収集が始まったのが昭和55年です。この頃からごみの再利用化という考え方が出始めました。

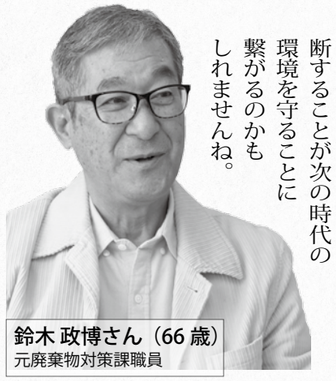
その翌年には焼却処理場が稼働しました。「工栄町の一本えんとつ」を覚えている方は私と同世代でしょう。こうしてごみは、リサイクルできる技術がどんどん出てきて、ごみというよりは有価物としての扱いにかわってきたのです。

時代、土地でかわる価値観

私は現役時代にごみという嫌われ者、やっかいものが大切なものにかわるんですよというのを周知することが大事だと考えました。

一方で、時代に合わせたごみ処理についても考えていく必要があると感じています。

たとえばごみを焼却する場合、リサイクルを考えて分別しても逆効果になることもあるんです。ごみ自体には燃料として燃える成分が含まれていますが、分別しすぎると焼却処理の際に燃えなくなってしまい、補助燃料で環境負荷をかける場合もあるのです。リサイクルにもお金がかかります。その時代の処分環境や出るごみの種類、量などを総合的に判断することが次の時代の環境を守ることに繋がるのかもしれませんね。


鈴木 政博さん（66歳）
元廃棄物対策課職員

9/25㈮ リサイクルバンク閉館

リユースショップやインターネットを利用した不用品のリユースの動きが普及してきたことから、リサイクルバンクを閉館します。閉館に伴い、提供品の回収も9/10㈭をもって終了となりますのでご注意ください。

新型コロナウイルス感染拡大対策
使用済みマスクの捨て方

発熱や咳などの症状がある方が使用したマスクやティッシュは、ポリ袋やレジ袋に入れて、袋の口を縛ってから市の指定ごみ袋に入れるようご協力をお願いします。

ごみ出しの際はごみ袋から使用済みマスクやティッシュが飛び出さないようしっかり縛り、「燃やせるごみ」の日に出してください。

生ごみ堆肥化容器
購入費用を助成しています！

生ごみ堆肥化容器を購入する前に申請すると、千円引きで購入できます。

申請書は市HP(右QR)からダウンロードできるほか、自宅へ郵送もできます。

ごみステーションの設置・移動は
必ず「市と協議」を

道内の自治体でごみ出しの際に痛ましい事故がありました。ごみステーションは、交通安全や生活環境上、設置できない場所があります。事故を防ぐためにも、移動・新設する場合は近隣の利用者で話し合った後に、必ず「市と協議」をしてください。特に固定式の「ごみボックス」の設置を考える方は、購入前に必ず市にご相談ください。

●共同住宅専用のごみステーション

既存の建物を含む4戸以上のアパート、マンションなどの共同住宅には、その敷地内に専用のごみステーションを設置することが市条例で義務付けられています。設置場所などの詳細は事前に市と協議し、自治会への説明をお願いしています。

共同住宅専用のごみステーションは入居者用です。所有者や管理者から承諾を得た場合を除き、入居者以外の方は使用できません。

家庭ごみの出し方

「分別の手引き」を参考に分別し、当日の朝9時までにごみステーションへ出してください。4月からの収集日は収集日カレンダーの裏面に記載しています。

【燃やせるごみ・燃やせないごみ】指定ごみ袋に入れる

【資源物・危険ごみ】中身が見える透明または半透明の袋に入れる

【袋に収まらないごみ】 長さ1m以下で、指定ごみ袋に収まらないごみは、「ごみ処理券」を貼って、ごみステーションへ

【大型ごみ】長さ1mを超えるごみや、発火の危険があるもの（暖房器具など）は、事前に大型ごみ受付センター（☎380-6000）に申し込み、「大型ごみ処理シール」を貼り玄関前へ

【多量のごみ】江別リサイクル事業協同組合（☎385-7124）に処理を依頼するか、環境クリーンセンター（☎391-0422）に持ち込む（有料）。

※指定ごみ袋、ごみ処理券、大型ごみシールは市内のスーパーやコンビニで販売しています。

【分別の手引き / 収集日カレンダー配布場所】

市役所本庁舎、市役所大麻出張所、情報図書館、水道庁舎、環境事務所、各公民館、各住区会館

【ごみの分別、出し方が分からないとき】

ごみ出しアプリ
収集日や分別方法が一目で分かります

ごみの出し方相談ダイヤル
☎384-5600